

新人女子アナ 奮闘中

読売テレビアナウンサー

小林 杏奈
こばやしあんな

アナウンサーって、どんな仕事を
してるだろう？ 今日は、ブラウ
管に映らない向こう側を、ほんのす
こし――。

出社は10時。

発声練習から、私の朝は始まりま
す。「あーえーいーうーえーおーあー
おー」。アナウンサーになって、発
声練習をしながら、23年間、自分
何をして生きてきたんだろうと、愕
然とします。こんなにも、言葉を発
声することが難しいとは……。

例えば、「本がある」という文章。
小学校1年生の時、国語の時間に習
いましたよね。先生の後に続いて、
小学生が大きな声で読む。まさかあ
れを、もう一度、やるとは……。普
通に話していると、気にならないこ
の言葉。しかし、人に聞いてもらう
ためには、一音一音を大事に発声し
なければいけません。「本がある」

をローマ字に直すと――『honn
g a a r u』となります。この「が」
と「あ」がくせ者なのです。「あ」
をしつかり発音しないと、「が」に
のみこまれちゃうのです。つまり、
「本が（あ）る」という状況になっ
てしまうのです。

退社は、19時。というのは、先輩
がニュースを読むのを聞くことも、
また勉強になるん
です。もちろん、
話すことも上手に
ならなくてははいけ
ないのですが、聞
くことも上手にな
りなさい、と先輩
に言われます。他



の人の声を、自分の声を、正確に聞
くことができはじめて、正確な発
音ができるということなんです。

という細かい作業を、毎日毎日、
やっていくわけです。不覚にも、こ
こまで難しいとは思っていませんで
した。

研修が始まって、数カ月。「人に
伝える」表面を見始めています。で
も、自分が画面に映るのも、自分が
雑誌などで紹介されるのも、まだま

だ慣れません。うわつと、思わず、
目を背けてしまいうぐらいます。覚え
ることも、山ほどあるんですね。東
京で生まれ育った私にとつて、関西
の地名や文化は、知らないものばか
り。ニュースの練習でも、知らない
地名ばかりで、周りの人に助けを求
める始末。

7月には、あの祇園祭、天神祭り
の中継を見に行
きました。

8月には、とう
とう『初なき』と
いわれるニュー
スデビュー。緊
張の連続でした。
ニュースが読め

てはじめてアナウンサーになれたと
言えるのです。大阪では、スポーツ
も盛ん。ご存じのように、今年阪
神タイガースが燃えに燃えています。
もし、優勝ということになれば、特
番などで、徹夜で仕事をするのは覚
悟してろよ、というゲキも現実に。

そして、何より、今年「デジタル
元年」なので、テレビのデジタル化
に向け、テレビ局の一員として、緊
張が高まる日々です。

私が、就職活動中から、気をつけ
ている三原則があります。

自分らしく、謙虚に、楽しむ。

人とおなじことはしたくない、そ
んな理由で、アナウンサーにならう
と思いました。そのうえで、とにか
く謙虚に、いろいろな人の意見を、
アドバイスを聞こうと思いました。

そして、なにより、自分が楽しくな
ければ、他の人も楽しくない、だか
ら、めいっぱい楽しもうと。自分
の与えられた環境で、どれだけ、輝
けるか――。

もちろん、仕事をしていて、泣き
たくなることも、自分の仕事のでき
なさに情けなくなることもあります。
でも、なぜアナウンサーにならうと
思ったか。それは、等身大の自分ら
しきで、事実を伝えていきたいかつた
からです。それと、もうひとつ。私が
頑張っている姿を見ると、負けていら
れない、そういう気持ちになるとよ
く言われます。その元気を、一人で
も多くの人に、感じてほしい。もちろん
私も、周りの人から元気を吸い取り
ますけどね（笑）。初心の気持ちを
忘れないで、これからも、突っ走って
いきたいです。

(03年法学部卒)